



秋田城跡出土の死亡人帳（漆紙文書）

この漆紙文書は、一九九八年に政府域東南側の大畠地区で実施された秋田城跡第七二次調査において、土坑から出土したものである。同一の遺構からは、戸籍や計帳様文書を始めとする多くの漆紙文書が出土しており、それらに記された年紀から、文書の廃棄年代は嘉祥年間（八四八～五）頃に求められる。

文書の内容は、戸ごとに戸主名と「人名・年齢・年齢区分・死亡年月日」を列挙した帳簿となっている。様式は、全体を二段書きとし、年齢・年齢区分を割書としている。上段には四本の横墨界線が存在しており、帳簿の冒頭には集計部分が存在したことを探測させる。また、文書中には墨抹消や圈点、「×」印が存し、秋田城内での事務に使用されていたことが窺える。

本文書は、秋田城の支配地域における死者名を、去年七月から今年六月にかけての一年間にについて書き上げた帳簿と思われ、計帳関連の公文として毎年作成されていたことを推測される。「延喜式」（主計下、勘大帳条）や「政事要略」（卷五七、大帳条）に見える「死亡帳」に相当する公文と考えられよう。

計帳枝文としての「死亡帳」の実例は從来知られておらず、長岡宮からも類似の漆紙文書が出土したこと（本誌二一九頁）と併せて、注目される史料である。

（秋田市教育委員会・秋田城跡調査事務所編『秋田城跡 平成十年度秋田城跡調査概報』一九九九年 参照）
（吉川 聰）